



音程とリズムだけじゃない！

『音楽』を

作れる耳の育て方

合奏リーダーのためのソルフエージュ入門

著者：有吉尚子
クラリネット奏者



【もくじ】



はじめに	p.3
耳が良いってどういうこと？	P.5
1) 周りで鳴っている音を把握する力	p.6
2) 音楽の進みたい方向を感じる力	p.7
3) 楽譜から音をイメージする力	p.9
習慣が耳を作る	p.13
1) ついついやっている耳をダメにする習慣①	p.14
ついついやっている耳をダメにする習慣②	p.17
2) 良い耳を育てるためにできること	p.20
今のあなたのソルフェージュ能力は？	p.25
身につける方法あれこれ	p.28

【はじめに】

中学や高校の吹奏楽部で初めて楽器に出会ったとき、これからどんなことができるようになるのかと、きっとワクワクしたことでしょう。



ところがそんな風に期待を持って演奏をはじめた多くの方が、音楽の基礎となるあれこれを知らないまま、コンクールや定期演奏会など本番に忙殺されて、テクニック面はトレーナーやレッスンの先生に、音楽面は指揮者に任せっきり頼りっきりになってしまいがち。

でも本当は誰かに依存した言われた通りの演奏ではなく、自分が感じた通りに思ったように演奏して、音楽を純粹に楽しみたいのではないのでしょうか？

もしも自分の耳と音楽性を信頼して、今よりもっと自信を持って演奏することに興味があれば、ソルフェージュがあなたの助けになりますよ。



この冊子はクラリネット奏者である有吉尚子が
もう一歩うまくなりたい管楽器プレイヤーのために、
自分の音楽に自信を持つために必要な音楽の基礎である
ソルフェージュに触れるきっかけとなるよう
願いを込めて作りました。



大切だと思っはいても
仕事や家事など毎日が忙しい
大人プレイヤーには
音楽の基礎に取り組む時間は
なかなか確保しにくいはず。

そんな日々の中でも、

- ・自分で楽譜から音楽を感じ取ることができて、
- ・自分の心身にとって意味のある練習を選び、
- ・ハーモニーやリズムだけではない
音楽そのものを聴き取り、
- ・思った通りに演奏できるようになるために、

心がけていくことができる基礎知識や上達のヒントを、
ご紹介していきます。

ぜひ頭の片隅に置いておいて
日々の練習で参考にしていってくださいね。



【耳が良いってどういうこと？】

あの人は耳が良いとか悪いとか
そんな話題に出会ったことはきっとありますよね。

これは聴力検査で計る数値のことではなく
聴こえた音からどれくらいたくさんの情報を受け取れるかということです。

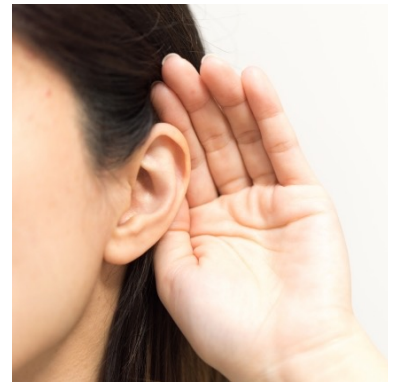
音にはたくさんの情報が詰まっていて、
その情報をキャッチする能力を
ソルフェージュと呼ぶのです。

ソルフェージュというのは

- ・ 周りで鳴ってる音を把握する力
- ・ 音楽の進みたい方向を感じる力
- ・ 楽譜から音楽を音としてイメージする力

この3つのことを言うことが多いです。

それでは3つそれぞれについて解説していきましょう。



1) 周りで鳴っている音を把握する力

ひとつ目の良い耳とされるための要素は、
周りでどんなことが起きているのかを把握できる
感度の良いアンテナを持っていること。

自分が吹くのに一生懸命で隣の人が間違えたのにも
気が付かないようではアンサンブルや合奏で
誰かと一緒に音を出す意味がありません。



それは誰かと会話しているのに
相手の言うことは無視して
自分の主張だけをするようなもの。

そんな人とは会話しても面白くありませんよね。

せっかく自分以外の仲間と一緒に演奏するなら
自分だけでなく周りを含めて
どうなっているのか把握できていて、
お互いに反応しあいたいものです。

そうすれば誰かが表情をつけてテンポを揺らしたら
それに合わせることもできるし、
ミスをフォローし合うことだってできるでしょう。

これがソルフェージュ能力のひとつ目です。

2) 音楽の進みたい方向を感じる力

次に耳の良さとして扱われるのは
音楽の方向性を感じる力
のこと。

日常生活の中で会話をする時に
「雨が降ったね」
と言われたらどんな風に
受け取りますか？



楽しみにしていた旅行が中止になって残念なのか、
畑の作物に潤いがもたらされて嬉しいのか、
買い物に行くのを面倒に感じているのか、
色々なシチュエーションがイメージできます。

その中で残念がっているのを喜んでいたり、
嬉しいという話を面倒くさいと受け取ったり、
そんな風に間違えることはほとんどないでしょう。

そして普段わたしたちはシチュエーションに合った
適切な相槌をできているでしょう。

それは
「こういうニュアンスで表現されたら
こういう意味なんだ」
というのを知っているから。

音楽だって同じです。

同じ音でもフレーズの前後関係によって
盛り上がって前に向かっていったり、
終わりに向かって落ち着いていったりします。

盛り上がっていく場面で自分だけ落ち着いていったら、
終わりに向かって落ち着いていく場面で一人で
盛り上がってしまっていたら、
恥ずかしいし何より変ですね。

そうならないために、
どんな音の景色が聴こえたらどんな意味なのかを
知ってきたいのです。

それを知っているのが
「音楽の進みたい方向を
感じる力」
です。



3) 楽譜から音をイメージする力

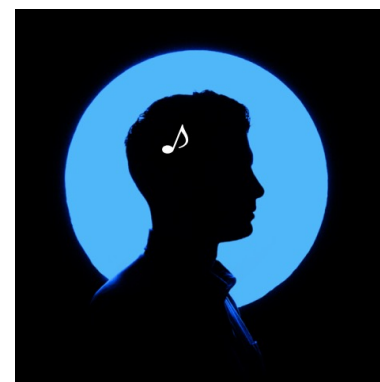
良い耳の要素、最後のひとつは
楽譜を見てそれが頭の中で音として
イメージできる力。

音を出してみなければどんな曲かわからないのでは
誰かが前に演奏したことのある場合か、
自分がインテンポで吹けるようになってからしか
どんな曲なのか知ることができません。

そして演奏というのは頭の中にある音楽を
実際に楽器で再現していく作業。

練習は頭の中のイメージに向かって
技術を磨いていく再現作業です。

だからこそ、
頭の中に鳴っていない音を
目指すことはできません。



頭の中で音をイメージできなければ、
よく知られた名作など音源がたくさんある作品以外の
新作初演や珍しい曲は演奏できなくなってしまいます。

それに文章を読み上げるとなったら
まっすぐに何の抑揚もなく読む人はいないでしょう。

今どきはAIだって多少の抑揚を付けて
読み上げてくれます。

その抑揚は「あいうえお」の文字が認識できるだけ
では付けられるものではありません。

文字だけでなく文の読み方を知っているから
意味がわかるのです。

楽譜も同じです。

ドレミが見分けられるだけの状態は、
「あいうえお」を見分けられるだけと同じ状態です。

楽譜が読めるというのは音符の並びから
意味が読み取れるということなのです。



その読み取った意味をどんな風に表現しようか
「激しく言ってみようか」
「甘く優しく言ってみようか」
というイメージをできるのが、
楽譜を音楽としてイメージできるということ。

そのイメージがあって出している音と、
イメージは無いけれど楽譜に並んでいる音符を
機械的に音に変換している演奏、
聴いてみればまったく訴えてくるものが違うでしょう。

音階を「ドレミファソだな」と思って演奏している人と
単なる下から上への音の羅列と違って吹いている人、
コンクール審査員など耳のいい人が演奏を聴けば
ちゃんと違いがわかってしまいます。



ここまで3つの良い耳の
要素について触れてきました。

わたしたちはこういうことを
全部ひっくるめて

「耳が良い・悪い」

「ソルフェージュができていない・できていない」

と表現しています。

一言の中に色々な意味が含まれているものですね。

では次のページからは
自分の耳を良くする習慣と悪くする習慣について
見ていきましょう！



【習慣が耳を作る】



普段あなたが無意識で
何気なくやってきたことや
やらないでしまったことが
今のあなたの聴く力を作ってきたのです。

ここではありがちなパターンとして

1) ついついやっている耳をダメにする習慣

それから普段気軽に出来る対策として

2) 良い耳を育てるためにできること

この2つをそれぞれご紹介しましょう。

特に意味もないと思っていた日々の小さな積み重ねが
いつの間にか自分の耳と演奏のレベルを
決定付けていたと知ると
びっくりするかもしれませんよ。



1) ついついやっている 耳をダメにする習慣①

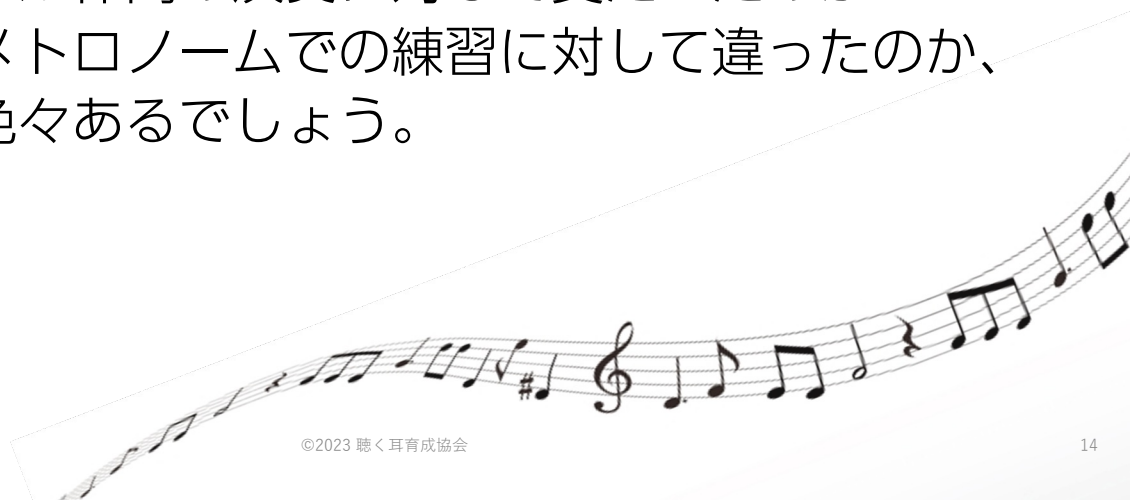
練習していてついうっかり間違えたとき
「今のはたまたまだからもう一回」
なんて反射的にやり直すことはありませんか？



間違えたのを無かったことにする
この反射的なやり直しは、
実は耳を悪くする習慣の一つです。

というのは上手く行かなかったことの
何がどうできなかったのかを
ちゃんと認識するチャンスを逃すことになるから。

例えば「ズレた」ということだって
狙ったテンポより速かったのか遅かったのか、
テンポは合っていても出だしが前後にズレたのか、
アンサンブル仲間の演奏に対して変だったのか
今までのメトロノームでの練習に対して違ったのか、
などなど色々あるでしょう。



それを「ズレた」の一言でまとめて
「とにかくもう一回！」
とやり直してしまうと
さっきより早く出たいのか遅く出たいのか、
テンポを変えたいのか同じでいいのか、
周りとの関係を調整する必要があるのかどうか、
わからないままになってしまいます。

次にどうしたいのかわからないまま
やみくもに繰り返す、
それは**時間と労力の無駄**です。



偶然できるまでひたすら
ギャンブルをするようなムダな時間は
忙しい大人奏者にはないでしょう。

練習というのは演奏したいことを目指して
出来ない原因を探して試行錯誤しながら
解決していく作業でもあります。

そのときに間違えたということは
自分がどういう傾向を持っていて
何に気をつけたらいいかなど色々わかる
貴重な情報源になるのです。



ミスが起きたときにどこがどう違ったか知る力も含んだソルフェージュ力というのはつまり、
音の細かな違いを認識する能力のことでもあります。



チョコを食べときに
「チョコレートだ」
ではなく
「味が、歯ごたえが、風味が、
見た目が、口溶けが他のとは違う」
と思えることなのです。

だから誰かの演奏を聴くときにも
「こういうところに気を配っているな」
または
「ここには気を配っていない音の出し方だな」
というのは自分自身細かく気を配って音を出している
耳の出来た人には明確にわかるもの。

だから音出し無駄吹きのときの最初のたった一音として
どんな音を出すかで相手のソルフェージュレベルが
わかってしまいます。

これはレッスンをしたり誰かにアドバイスをする場合に
必須の能力です。

ついついやっている 耳をダメにする習慣②

合奏で全員楽譜通りに吹いているのに
なんだかバランスが悪い・・・

そんなことってありませんか？



どんなにキレイな響きになるよう
工夫して書かれた楽譜でも
演奏者が無神経で何も考えない音を出しては
キレイな響きにはなりません。

そんな無神経なハーモニーを鳴らしてしまうのは、
日頃の基礎練習や基礎合奏のときに一人一人が
何の意図もない無神経な音を出して
ガシャツとした響きばかりをたくさん聴いている
というのも一因です。

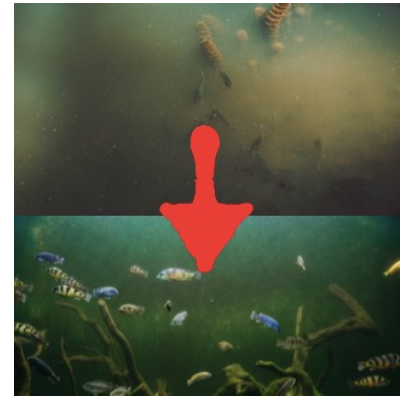
他人が出している音も普段からたくさん聴いていたら
感覚は馴染んでいくので耳の精度に影響しますし、
おかしいバランスに普段から慣れていたら、
バランスの歪みによる濁りがわからない耳に
なってしまいます。

ただの伸ばしの一音だけでも
ハーモニーの核になるのは誰なのか、

自分は誰の音に寄せるべきなのか、
それとも周りが自分に寄り添ってくるのか、

全体の響きはどんな風にしたいのか、

そんなことを考えながら
出している音なら音程だけでなく
バランスの違いによる濁りも
聴こえるようになって
きれいなハーモニーを作れるようになっていくもの。



音の些細な変化を感じ取れるように
耳が育っていくのです。

響きのバランスの違いが聴き取れるかどうかは
才能など生まれつきのものではなく、
どれだけ日頃たくさんの情報を音から得ようと
耳を澄ましているかに関係します。

雑に練習している時のどうでもいいと思っている音が
あなたの「標準」を作っているのです。

恐ろしいですね・・・

とはいえ自分で演奏する人は
有名奏者や尊敬する先生の音よりも自分が出す音を
聴く機会が圧倒的に多いのは普通のこと。

一番たくさん聴く音が
無神経にとっちらかっていたら
どんな耳が育つかは想像に難くありません。



「そんなこと言われても・・・」

と思ってしまうのでしょうか？

この次の項目で
どうしたら良いのか考えて行きましょう！

2) 良い耳を育てるためにできること

耳を悪くする習慣があれば
反対に良くする習慣もあるもの。

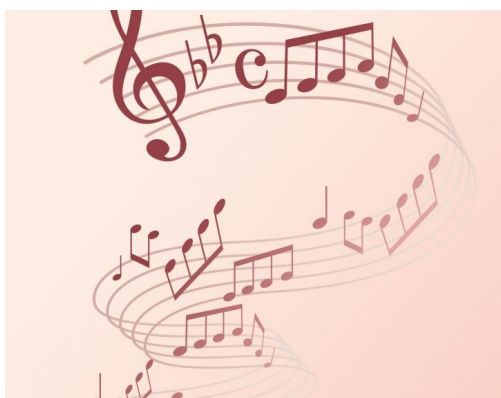


ここでは普段どんなことに
気を付けると耳が良くなって行くのかを
考えてみましょう！

まずは
周りで鳴っている音を把握して
ほんの些細な音の変化を感じ取る精度をあげるには
ということから見て行きます。

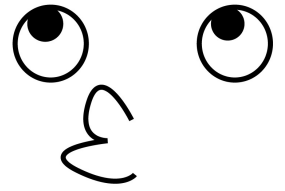
些細な変化というのは音の立ち上がりや語尾の処理、
わずかな音程や音質の違いなどのこと。

これはそもそも耳に音としての情報は入っているのに
それが意味を持っていると認識していない、
ということが原因です。



ということは変化に注意を払う
習慣をつけることと、
聴こえてくる音の違いに
意味があると知ることが大切。

耳の良い人が違った響きだと感じるものを
「全然変わらない同じようなものを感じる」
というほとんどの方は些細な変化を
「気のせい」「大したことの無い違い」
だと思っていることが多いのです。



聞こえていないのではなくて
意味のある情報だということを知らないということ。

確かに日常の中で生活音として鳴っている音に
些細な音質や響きの変化があったとしたって、
命にかかわることもなければ
お給料に響くこともないし
別段気にしなくてもいいでしょう。



でも音楽を演奏するなら
気にしないわけには行きません。

音には奏法を変えた時のフィードバックだったり、
ニュアンスをコントロールした結果だったり、
という些細な変化が表している意味があります。

気のせいではなく変化したんだなということに
気がつくことがまず第一歩です。

それは自分の音も合奏全体の音も同じこと。

次に

音楽の進みたい方向を感じる力

をアップさせるにはどうしたら良いのでしょうか。

これは音楽が盛り上がって行きたいのか
落ち着きに向かって収束したいのか、
色合いが深まって行くのか
薄まっていくのかなどなど、
どういう変化をしたいのかを
感じ取ることができる力のことです。

例えば小学校時代にお辞儀をするとき
ピアノの和音に合わせてしたことはありませんか？

ジャーン、ジャーン、ジャーンの3つで
「気をつけ」「お辞儀」「なおれ」
をやっていましたよね。

[\[そんなの忘れたよって方はここから聴けます\]](#)

これは安定したところから不安定な姿勢になり
元の安定した姿勢に戻ってくる、
という動きでした。

この時、和音の響きもそうなっていて、
最後の和音が鳴るときには元に戻って
起き上がりたくなります。



これはシンプルな例ですが、
すべての和音にこんな風に動きたい方向や
色合いの違いがあります。

そういう色合いの違いを感じるかどうかは
生まれつきの感性やセンスなどではなく、
**ひとつひとつの和音の響きの違いを
よくよく耳を澄まして聴いているかどうか**
で決まります。

これは漫然と聞き流していれ入ってくる情報ではなく、
耳をすまして注意を払った人にしかわからない
細かな響きの違いです。

だからこれもどんな違いがあるのかを
注意深く観察する
というのが聴き取るために出来ること。

聴力のお話ではありません。

注意力のお話です。

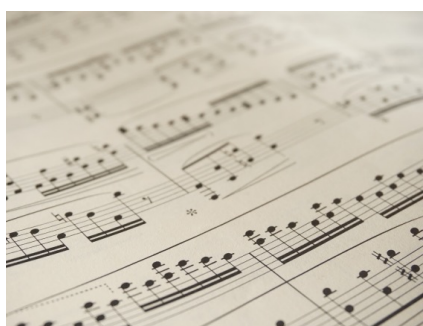


最後に

楽譜から音楽を音としてイメージする力

を育てるにはどんなことができるでしょうか。

それには楽譜に並んでいる音符を読むだけでなく、行間に込められた作曲者の意図を読み取ろうとすることが大切です。



盛り上げて欲しいところなのか
柔らかく優しく演奏して欲しいのか、
メリハリをつけて欲しいのか、
そういう行間に書いてあることが
音を出す前にわかること。

その意味がわかるためには
どんな和音がどんな役割か知っていたり、
旋律の骨格を飾ってる音はどれなのかを見分けられたり、
何調に転調したのか把握できたりする
アナリーゼの能力が必要不可欠です。

アナリーゼは無意味にただ分析するためのものではなく
楽譜の意味が理解できるためにあるのです。

その前提として知っておきたいのが「**楽典**」ですね。

【今のあなたのソルフェージュ能力は？】

ここまで色々読んできましたが、
では今のあなたのソルフェージュレベルは
一体どれくらいなのでしょう。

「自分は結構イイ感じのはず！」
なんて思っている人ほど
実は周りとのズレや違和感に気付いていないだけで
良いと思っっているのは自分だけ・・・
ということは往々にしてありがちです。

現状を知らない人は進歩のしようがありませんが、
自己満足ではない現実の自分のレベルを知ったら
次は先に進む方法を見つけるだけになります。

本当にうまくなる人は
無意味にうぬぼれたりせず
現状把握をしっかりとっているもの。

もちろん実際に音を聴いていない
紙上では正確にあなたの現状を
知ることはできませんが、
大まかな状況を知るため
試しに**簡単なテスト**を行ってみましょう！



①～③それぞれの和音を聴いて
どんな印象の違いがあるか書き出してみましよう。
[音源リンクはこちら](#)

①の和音

色合いは・・・
明るさは・・・
華やかさは・・・
硬さ柔らかさは・・・
その他の印象は・・・

②の和音

色合いは・・・
明るさは・・・
華やかさは・・・
硬さ柔らかさは・・・
その他の印象は・・・

③の和音

色合いは・・・
明るさは・・・
華やかさは・・・
硬さ柔らかさは・・・
その他の印象は・・・



書き出せたことが今のあなたに聴こえていること、つまりあなたの耳のレベルです。

【レベル1】どれも同じに聴こえた場合

→現在は聴き分けるスキルが全くないということ。

【レベル2】何となく違うけど言葉にできなかった

→一応聴こえているけどその意味がわかっていない。

【レベル3】違いがたくさん書き出せた

→微細な変化に耳を向けることができている。

実際に自分が演奏しながらでも

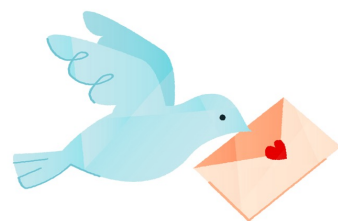
今と同じような聴き方ができているかしら？

これは簡単なテストですが、
一回試したら永久にそのレベルのまま
ということはありません。



注意を向けるポイントを
的確に学んでいくことでレベルはどんどん上がるし、
演奏中に周りから聴こえることも増えて
それに対する対応力も上がっていくのが普通です。

もっと詳しく知りたい方はこれから毎日配信される
メール講座でたくさん書いていますので
どうぞお楽しみに！



【身につける方法あれこれ】

ここまで色々なことを取り上げましたが
良い耳を作るための一般的な方法は次の3つです。

- ・合奏の中で何となく身につける
- ・教材を買って自分でやってみる
- ・レッスンを受ける

はじめの

「合奏の中で何となく身につける」
はこれを読んでもほとんどの方が
すでに経験済みでしょう。



先輩プレーヤーやトレーナーや指揮者が
曲を仕上げていく過程で言及する最低限のことから
情報を拾って学ぶ方法です。

でも、
今までに必要なことが
網羅できていないからこそ
あと一歩うまくなって
演奏を楽しむために
何をしたらいいかわからなくて
困っているわけですよ。



次の

「教材を買って自分でやってみる」
はどうでしょう。

これも試した方は少なくないかもしれません。

その教材をどんな風に使ってどこに注意したらいいか、
そして何ができたら次に進んでいいかの基準まで
丁寧に解説してある本なら役に立つでしょう。

ただしほとんどの教材が、
レッスンで生徒のレベルや年代に合わせて
先生が使い方を色々アレンジ工夫してこそ
効果が出るものがほとんどなので、
ただ単に一冊通して読んだからって
結局チンプンカンプンの場合がほとんどでしょう。



ということで3つめの
「レッスンを受ける」
が自分の段階や進み具合に合わせて
一番効果的に学べる方法です。



ソルフェージュのレッスンを受けずに音大・音高の
受験をするというケースはほとんどありません。

だって専門家になりたい人は
何となくだらだらといつまでも効果があるかないか
いまいちよくわからない方法で学び続けていないで、
サッサと必要なことを身につけて早い段階で
演奏活動を開始したいわけですから。

- ・合奏の中で何となく身につける
- ・教材を買って自分でやってみる

この2つの選択肢は時間と労力が
無駄になりすぎるのです。

忙しい大人奏者もそれは同じ。

まさに

「時は金なり」

ですね！



とはいえ別に専門家を目指すわけではなく
時間も体力もたっぷり余っていて
演奏を充実させるのはいつかそのうちでいいし、
独力で一から探求するのが大好き！
というタイプの方には独学が向いている
かもしれません。

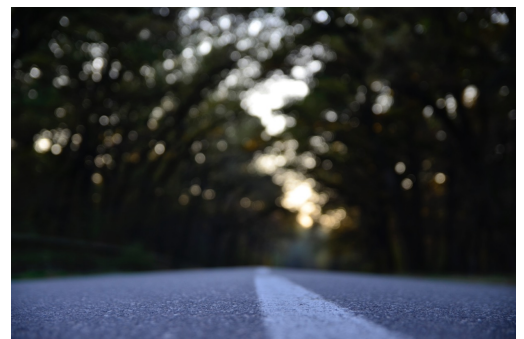
それに

「耳なんて全然良くならなくて
まったく上達しなくても音が出せればそれで幸せ！」
という人だって世の中にはたくさんいて
それでも音楽が好きで本人が満たされている
というケースだってあるでしょう。

どれも良い悪いではなく本人のやりたいこと次第で
自由に選ぶ権利があるので

「音楽をやるならこれを学ぶべき」
なんて他人が押し付けるようなことではありません。

その上で短期間で効率的に
上達して演奏を充実させたいければ
専門家のレッスンを受けるとい
近道を選ぶのも自由です。



でも近くに専門の先生がいなかったり、
楽団全員で遠方にレッスンを受けに行くなんて
現実的じゃないというケースもあるでしょう。

そんな場合は、
先生を地元で呼んでレッスン会を開く
というのもよくある方法ですが、
あなたが身の回りの仲間のために
レッスンをするのはどうでしょうか。



実は音楽のレッスンは特別な才能がなくても
きちんと体系的に勉強した人なら誰でも出来るもの。

まずはあなたがしっかり学んで、
それから周りの楽団仲間にレッスンを受ける機会を
提供することだって可能かもしれませんよ。

レッスンという形態ではなくても
ちょっとしたアドバイスや相談に乗るようなときに
的確な知識と指導スキルを持っていたら、
仲間にとってそれはとても頼りになるのでは
ないでしょうか。

もしあなたが自分の演奏をもっと充実させたくて、
また頼りにされる合奏でのリーダーを目指したいなら、
惜しみなくお手伝いをいたします。

たくさんの音楽好きな方が
的確に音楽の基礎を学べて
もっともっと演奏を
楽しめるようになりますように。



著者紹介／有吉尚子



1982年栃木県日光市（旧今市市）生まれ。
小学校吹奏楽部にてクラリネットに出会い、
高校卒業後19才までアマチュアとして活動する。
20才のときに在学していた東京家政大学を中退し音大受験を決意。
2003年洗足学園音楽大学入学。在学中から演奏活動を開始。

オーケストラや吹奏楽のほか、CDレコーディング、イベント演奏、テレビドラマBGM、
ゲームのサウンドトラック収録など活動の幅を広げ2009年に洗足学園音楽大学大学院を修了。
受講料全額助成を受けロシア国立モスクワ音楽院マスタークラスを修了。
及川音楽事務所第21回新人オーディション合格の他、コンクール・オーディション等受賞歴多数。
NHK「歌謡コンサート」、TBSテレビドラマ「オレンジデイズ」、ゲーム「La Corda d'Oro
（金色のコルダ）」ほか出演・収録多数。
これまでに出演は1000件以上、レパートリーは500曲以上にのぼる。

演奏やレッスン活動をするうちに基礎を学んでいないためにコンプレックスを抱え悩んでいる
奏者がとても多いことに気づき、プロ志望でなくても本格的に演奏を学べる場所の必要性を痛感。

音楽大学・大学院の修了後に改めてソルフェージュや音楽理論、アレクサンダーテクニークを学び、
演奏技術だけでなく作品の解釈や練習の組み立て方、本番に向かうメンタル面のコントロールなど
実際の演奏に結びつけながら総合的に身につけることの大切さを実感したことを活かし
「聴く耳育成メソッド」を立ち上げる。

レッスンや講座は「楽典は読んだことがない」「ソルフェージュって言葉を初めて聞いた」という
アマチュア奏者でもゼロから楽しく学べ、確かな耳と演奏力を身につけられると好評を博している。
これまでに延べ1000名以上が受講。

「ザ・クラリネット」（アルソ出版）、吹奏楽・管打楽器に関するニュース・情報サイト
「Wind Band Press」などに記事を寄稿。

現在オーケストラやアンサンブルまたソロで演奏活動のほか、レッスンや執筆、
コンクール審査などの活動も行っている。クラリネット奏者。聴く耳育成協会代表理事。
BODYCHANCE認定アレクサンダーテクニーク教師。音楽教室N music salon 主宰。

聴く耳育成メソッド

長年の経験はあるけど自分の音楽に確信が持てない、
努力はしているのにプロとは何かが違う・・・
そんなアマチュア奏者が、
レッスンの先生や指揮者に頼り切りにならず
自分で音楽の方向性や歌い回しを考え思い通りの音楽を
自信を持って表現できるようになるのためのレッスンです。

楽譜から音符の並びだけでなく
作曲家が込めた想いを読み取る方法を学ぶ
「楽典&アナリーゼ」

楽器演奏をより快適に効率的にするための
心と身体の仕組みと使い方を知る
「アレクサンダーテクニーク」



音楽的な耳の使い方とはどういうものかを知って
より良く音でのコミュニケーションを取るための
「ソルフェージュ」

という演奏の基礎スキルである3本柱を
まとめて学ぶ機会を提供しています。

まずは無料のメール講座で学んでみてくださいね！

メール講座
～スキマ時間で確実に上達する～
【管楽器プレイヤーのための練習テクニック】

https://open-eared.com/mail_course/



第一版 2018年12月18日発行

著者 有吉尚子

発行所 聴く耳育成協会

〒166-0003東京都杉並区高円寺南2-37-14クレシェンド高円寺403
(販売・ライセンスについてのお問合せ)

info@open-eared.com

本教材、および収録されているコンテンツは、
著作権、知的財産権によって保護されていることはもちろんですが、
購入・ダウンロードされたコンテンツは、
あなた自身のために役立つ用途に限定して提供しております。

教材に含まれているコンテンツを、その一部でも、
書面による許可（ライセンス）なく複製、改編するなどして、
またあらゆるデータ蓄積手段により複製し、
オークションやインターネット上だけでなく、
転売、転載、配布等、いかなる手段においても、
一般に提供することを禁止します。

引用、転載、教育を希望する場合には
別途ライセンス契約が必要となります。